

要 旨

本研究は、問いをもちながら社会的事象の意味について考えることができる児童を育成する学習指導の在り方を探ったものである。問題解決的な学習の「つかむ」過程において、児童の気付きや疑問を基に予想を出させ、予想を焦点化させながら構造化させて学習問題を設定する活動を仕組んだ。これにより、児童は予想を問いとし、問いの構造を把握し、問いについて調べ、身に付けた知識同士を関連付け総合しながら社会的事象の意味について考えることができるようになった。さらに、学習問題について考えるために、社会的事象の意味を問う問いをもつ姿が見られるようになった。

〈キーワード〉 ①予想の焦点化 ②問いの構造 ③関連付け・総合

## 1 研究の目標

社会的事象の意味について考え、追究し続けることができる児童の育成のために、問題解決的な学習の「つかむ」過程において、児童が気付きや疑問を基に学習問題を設定する効果的な指導の在り方を探る。

## 2 目標設定の趣旨

小学校社会科は、地域社会や我が国における人々の社会生活を広い視野から捉え総合的に理解することを通して、公民的資質の基礎を養うことを究極的なねらいとしている。平成27年8月の中央教育審議会「教育課程企画特別部会 論点整理」には、公民的資質の基礎を養うために育成すべき「三つの柱」の1つとして「思考力・判断力・表現力」が挙げられ、その育成のために社会科では課題解決的な学習活動の充実等が求められている。小学校学習指導要領解説社会編においても問題解決的な学習を一層充実させることが求められている。問題解決的な学習の充実のためには、児童一人一人に問題意識をもたせ、学習問題に対して解決の見通しを立てさせてから、問題を解決していく学習活動を構成することが大切であると考えられる。

澤井陽介は、「学習内容は、教師が一方向的に説明・伝達するものではなく、問題を解決する過程で子供が調べたり考えたりして獲得し、理解していくもの」<sup>(1)</sup>としており、「子供の思考に沿った学習展開に工夫を必要とする」<sup>(2)</sup>としている。また、学習目標の実現に向けた緻密な問題解決のためには「子供に出合わせる具体的な事実を社会的事象の中から絞り込み、子供の気付きや疑問が生まれるようにし、それらを生かして学習問題を設定することが大切」<sup>(3)</sup>としている。

平成27年度佐賀県小・中学校学習状況調査のWeb報告書によると、5年生の評価の観点「社会的な思考・判断・表現」の正答率は42.7で「おおむね達成」の基準50.0を7.3ポイント下回っていた。特に「資料を基に、米を品種改良する理由に着目した質問を考えることができる」といった「社会的事象の意味について考え、社会的事象について追究する」記述式の設定問について課題が見られた。これは「米の品種改良を行う目的」について追究するために、知識と資料から読み取った情報とを関係付けて考え表現することが難しかったためと考えられる。

これまでの実践を振り返ると、社会的事象について児童から気付きや疑問を引き出していたが、それを児童の思考に沿わせることなく教師主導で集約し、学習問題を設定する授業展開を行ってきた。結果として児童に追究意欲をもたせて主体的に学習に取り組ませることができなかつた。そのために身に付けた知識と自分の生活とを関係付けて考えさせることができず、児童に社会的事象の意味を考えさせることができなかった。

そこで、本研究では、研究テーマ、研究課題を受け、小学校5年生の学習において資料の提示や発

問，問い返しを行い，気づきや疑問を児童の思考に沿わせて焦点化させ学習問題を設定する。そのような活動を仕組むことで，社会的事象の意味について考え追究し続けることができる児童が育成できると考え，本目標を設定した。

### 3 研究の仮説

問題解決的な学習の「つかむ」過程において，社会的事象を表す資料を提示し，気づきや疑問を児童の思考に沿わせて焦点化させながら学習問題を設定する活動を仕組めば，学習問題解決のための問いをもつようになり，単元全体を通して，社会的事象について問いをもちながら学習問題について考える児童が育成されるであろう。

### 4 研究方法

- (1) 社会科における思考力・判断力・表現力を育成する指導に関する理論研究
- (2) 所属校5年生の児童における社会科の授業や学習内容に関する実態調査
- (3) 検証授業や単元全体を通した，手立ての有効性の考察

### 5 研究内容

- (1) 研究紀要や先行文献の社会科における思考力・判断力・表現力を育成する指導に関する理論研究を基に，学習問題設定の効果的な指導の在り方を明らかにする。
- (2) アンケート調査を実施し，その結果を単元構成や発問計画，資料提示の工夫，板書計画に生かす。
- (3) 所属校の5年生における単元「わたしたちの生活と森林」を用いた授業実践を行い，単元を通した授業の様子やワークシートの記述から仮説の効果について検証を行う。

### 6 研究の実際1（実践化への手立て）

- (1) 文献等による理論研究

澤井陽介は，「社会科における『考える力』は，もっている知識（理解）や資料活用等で得た情報を，比較・関連づけ・総合して社会的事象の特色，相互の関係，意味について考える力」<sup>(4)</sup>と述べている。「比較」とは「『複数の情報を比べる』思考方法」，「関連づけ」は「『複数の情報をつなげる』思考方法」，「総合する」は「学習したことを『まとめる』思考方法」<sup>(5)</sup>であると示している。

これらの考えより，「社会的事象の意味について考えることができる児童」とは，社会的事象について知識相互を関連付け総合して自分の言葉で解釈することができる児童と捉える。その際，児童は自分の考えが正しいか，ほかに調べることはないかと問いをもつことで社会的事象への解釈を深めて考えていくことにつながると捉える。多岐に広がる児童の思考を学習問題について考えることへ導くためには，様々な児童の気づきや疑問の関連性を示し，児童に見通しをもたせることが重要と考える。

北俊夫は，社会科で学習する知識について表1のように整理している。3つの知識は「概念的知識」の下位に「具体的知識」，その下位に「用語・語句」と構造化されているとしている。上位層の知識は下位層の知識が習得されてこそ獲得できる。また，それぞれの「用語・語句」や「具体的知識」は互いに関連し合っていると述べている。

表1 北による知識についての整理

	説明
概念的知識	多くの場合，社会的事象の特色や役割，社会の様子や傾向などを表現しており概念的，抽象的な内容のもの。
具体的知識	概念的知識を説明する際に必要となる知識である。「概念的知識」の下位に位置するもの。
用語語句	習得させないと今後の社会科などの学習や日常生活において支障をきたすもの，情報収集や考える活動を行う際に必要となるもの。

知識は問いの答えであることから、知識の構造は問いの構造に置き換えることができると考える。児童が社会的事象に対して問いをもつために、どのような思考をするのか、本研究では、長谷川康夫の理論を基に、表2のように整理した。単元の学習問題設定の際に児童に気付きや疑問を基に予想を出させ、その予想を焦点化させながら構造化させていく。そうすることで児童は予想を問いとし、問い同士の関係性を知ることができ、学習問題について考える見通しをもつ。そして自分から下位の問いから上位の問いに向かって調べたり考えたりしていく。そのようにして、児童は調べて身に付けた具体的知識同士を関連付け総合して社会的事象の意味について考えていくと捉える。

表2 「気付き」が「問い」になるまでの過程

	説明	例
問い	問題を解決するために分かってほしい段階。「疑問」「予想」は本当かどうか確かめなくてはならないものなので、「問い」になる。	「誰かが木を植えているのだろうか?」「なぜ森林は減っていないのだろうか?」
予想	問題の把握。疑問の答えを考え、意外だと感じた原因を探り、調べる問いを醸成する段階。	「誰かが木を植えているのではないかな?」
疑問	問題の発見。気付きを言葉で表現し、何が意外なのか認識した段階。	「どうして森林は減っていないのかな?」
気付き	問題の覚知。資料などに内在する意外な事実に気付いた段階。	(森林は減っていると思っていたのに、森林面積は変化していないことについて)「えっ?」

(2) 具体的な手立て

児童の思考過程の構造化

思考過程の構造化とは、児童の気付きや疑問、予想を単元で調べる学習内容ごとに整理したり、学習内容同士の関係性を示したりすることである。そのために、次のことを行う。まず、児童に気付きや疑問をもたせることができるように社会的事象を表す資料を提示し、発問や問い返し、資料提示の工夫を行う。次に、児童の社会的事象に対する気付きや疑問に対し、問い返しを行い予想を出させ、同じ学習内容ごとに予想をまとめながら板書する(焦点化)。予想をまとめながら板書する際に、まとめた学習内容相互の関係に気付かせるようにまとめごとを示し(構造化)、学習問題設定につなげる。この学習問題設定までの過程を通して、児童は予想を問いとし、問いの構造を把握する。この思考過程を可視化したものを「関係図」として示し、単元を通してその内容を意識させるようにした。

(3) 児童の思考力・判断力・表現力を高める学習過程

図1のように、「学習問題をつかむ」過程で児童に気付きや疑問から予想を出させ、予想を焦点化させながら構造化させ、学習問題を設定した。その際に学習問題について考えるための問いをもたせた。次に「調べる」過程では、学習問題について考えるための問いを調べさせ、身に付けた知識を関連付け総合して学習問題について考えさせた。また、学習問題について考えるための問いをもたせた。そして「考え・まとめる」過程では、身に付けた知識を更に関連付け総合して、学習問題について考えさせた。このような過程を経ることで、児童は身に付けた知識を基に学習問題について考え、その考えでよいかを振り返り、他に調べることはないかと問いを見いだしていくことができるようになると考えた。この過程を通して社会科における思考力・判断力・表現力を高めしていくことができると捉えた。

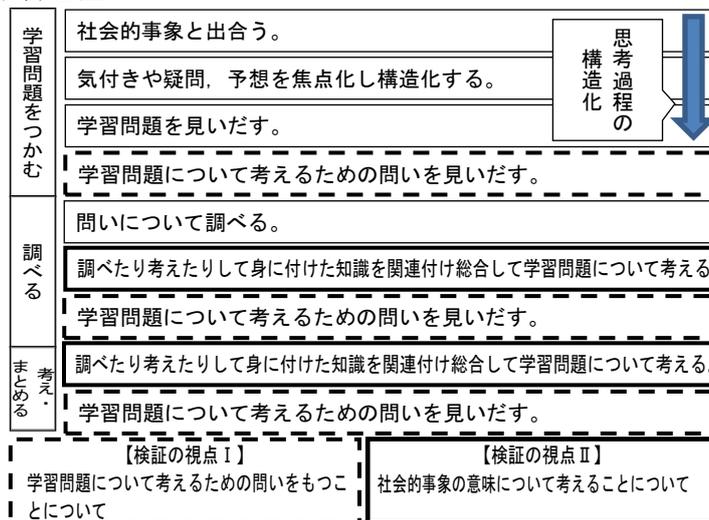


図1 思考力・判断力・表現力を高める学習過程

(4) 検証の視点

ア 学習問題について考えるための問いをもつことについて【検証の視点Ⅰ】

「学習問題をつかむ」過程で学習問題を設定した後に、学習問題について考えるための問いをもつことができたか。

イ 社会的事象の意味について考えることについて【検証の視点Ⅱ】

「調べる」過程と「考え・まとめる」過程で、知識相互を関連付け総合して学習問題について自分の考えを記述することができたか。また、記述したことを基にどのような問いをもつことができたか。

7 研究の実際2（授業実践を通しての結果）

(1) 各授業の位置付け

1月26日、27日、31日に小単元「わたしたちの生活と森林」（全4時間）に係る検証授業を行った。検証授業（1／3）では、児童の社会的事象に対する予想を焦点化させながら構造化させ「なぜ森林は守らなくてはいけないのか」という学習問題を設定し、学習問題について考えるための問いを見いださせた。

検証授業（2／3）では、「森林の働き」に関する問いについて調べさせ、調べた結果を基に学習問題について考えさせた。また、学習問題について考えるための問いを見いださせた。

検証授業（3／3）では、「森林に関わる人々の仕事」に関する問いについて調べさせ、調べた結果を基に学習問題について考えさせた。また、学習問題について考えるための問いを見いださせた。

(2) 授業の実際

ア 小単元名：第5学年「わたしたちの生活と森林」（全4時間）

イ 小単元の目標

我が国の森林について関心を持ち、森林資源に関わる社会的事象から学習問題を見いだして資料や地図などを用いて問いを調べ、森林資源の働きとわたしたちの生活との関わりについて考えを深めるようにする。

ウ 小単元の学習計画（図2は本小単元の内容に関わる「知識の構造図」、図3は本小単元に関わる「関係図」）

過程	主な学習活動(○)	時配	検証
学習問題をつかむ	○日本の森林に関する資料を見て、学習問題を設定する。 学習問題：なぜ森林は守らなくてはいけないのか。 ○学習問題について考えるために調べたいことである問いを見いだす。【検証の視点Ⅰ】	1	1/3
調べる	○森林の働きについて調べる。 ○調べたことを基に学習問題について考え、問いを見いだす。【検証の視点Ⅱ】 ○森林に関わる人々の仕事について調べる。 ○調べたことを基に学習問題について考え、問いを見いだす。【検証の視点Ⅱ】	2	2/3 3/3
まとめ・考え	○森林の働きや森林とわたしたちの生活との関わりについてまとめる。【検証の視点Ⅱ】	1	

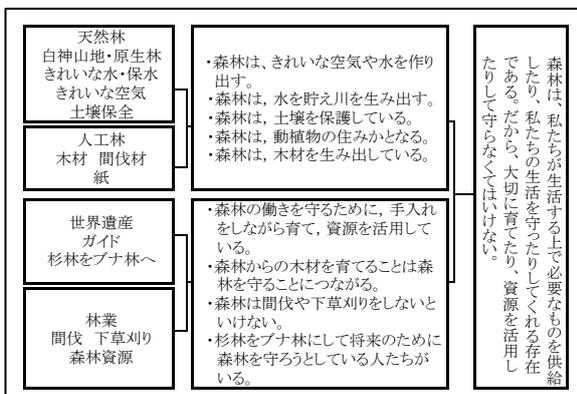


図2 本小単元の内容に関わる「知識の構造図」

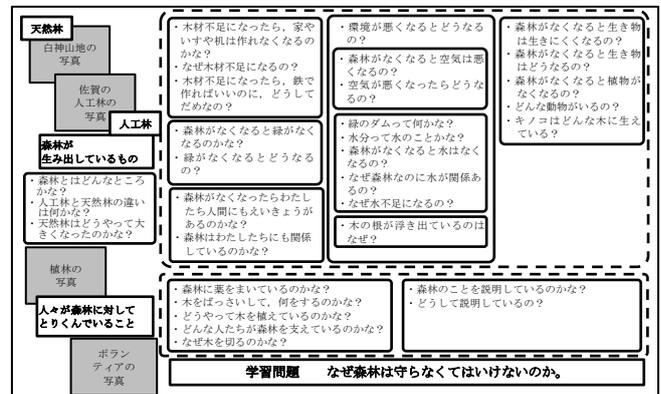
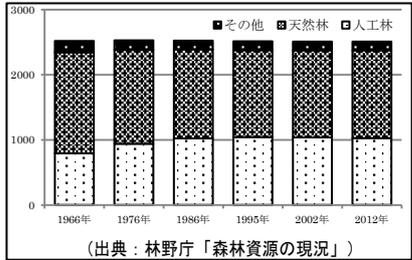


図3 本小単元に関わる「関係図」

エ 授業記録 (本時 1 / 4)

児童の学習活動と教師の働きかけ (一部省略) □ : 学習活動 ゴシック : 仮説に関わる教師の手立て	
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>めあて 学習問題をつくり、学習の計画を立てよう。</p>	
<p>2 森林について考える。</p> <p>※ 「森林は守り育ててはいけない」というメッセージが書かれた佐賀県森林環境税啓発のリーフレットを紹介し(資料1)、児童がもった気付きから疑問を引き出した。</p> <p>T<sub>1</sub> このリーフレットには「森林は守り育ててはいけない」と書いてあります。</p> <p>C<sub>21</sub> えっ?なんで?どうして?(口々に)</p> <p>C<sub>1</sub> どうして、森林を守らなくてはならないのかな?</p> <p>※ 問い返しをし、学習内容の1つである「森林の働き」に関する疑問を出させるようにした。</p> <p>T<sub>2</sub> どうして、森林を守らなくてはならないのでしょうか?</p> <p>C<sub>3</sub> なくなってしまうからかな? なくなると困るからかな?</p>	 <p>資料1 リーフレットの紹介</p>
<p>3 森林の働きについて考える。</p> <p>※ 児童の予想を「森林の働き」に焦点化させるため、関係がある予想同士をまとめて板書したり、似たような予想を求めたりした。</p> <p>T<sub>3</sub> 森林がなくなったらどうなるのでしょうか?</p> <p>C<sub>2</sub> 空気が悪くなるのかな。</p> <p>C<sub>3</sub> 木材が不足してしまうのかな。</p> <p>C<sub>4</sub> 水分がなくなるのかな。</p> <p>T<sub>4</sub> 似たような予想を書いた人はいますか。</p> <p>C<sub>5</sub> 動物が生きにくくなるのかな。</p> <p>T<sub>5</sub> 今はここ(次頁資料3 枠囲み部図を指して)のことを話していますよ。</p> <p>C<sub>6</sub> 自然のダムがなくなるのかな。</p> <p>※ 「森林がなくなったらどうなるか」に対しての予想を「森林の働き」へ焦点化させた。</p> <p>T<sub>6</sub> (資料3 枠囲み部図を指しながら) 全部まとめてどのようなことを調べていけばいいのでしょうか?</p> <p>C<sub>7</sub> 環境のことを調べるといいと思います</p> <p>C<sub>8</sub> 環境保全のことを調べるといいと思います。</p> <p>T<sub>7</sub> (資料3 枠囲み部図を指して) これは環境についてのみんなの予想でしょうか?</p> <p>C<sub>9</sub> 違う。</p> <p>C<sub>10</sub> 森林保全のことを調べるといいと思う。</p> <p>C<sub>11</sub> 資源のことを調べるといいと思う。</p> <p>T<sub>8</sub> (資料3 枠囲み部図の一つ一つの予想を指しながら) これら一つ一つをまとめると、どのようなことを調べていけばいいのでしょうか?</p> <p>C<sub>12</sub> 森林が必要なものを調べるといいと思う。</p> <p>C<sub>13</sub> 関連しているものを調べるといいと思う。</p> <p>C<sub>14</sub> 生み出しているものを調べるといいと思う。</p> <p>T<sub>9</sub> 森林が生み出しているものを調べればいいのか(「森林が生み出しているもの」と板書【資料3 枠囲み部図】)。</p>	
<p>4 森林に関わる人々の仕事について考える。</p> <p>※ 資料「教室の様子」(資料2)を提示し、森林の木材が様々なものに変わることを確認させた。</p> <p>T<sub>10</sub> みんなの教室のように、たくさんの木材が使われているなら、森林面積は減っているでしょうね。</p> <p>C<sub>15</sub> 減っていると思います。</p> <p>C<sub>16</sub> 減っていると言われると、本当に減っているのか分からなくなる・・・。</p> <p>※ 資料「日本の森林面積の変化」のグラフ(図4)を提示し、資料と児童の認識との違いから、「森林に関わる人々の仕事」に関する疑問を引き出した。</p> <p>C<sub>17</sub> 減っていない!</p> <p>C<sub>18</sub> あれ?</p> <p>C<sub>19</sub> なぜ減っていないのかな?</p> <p>※ 児童の予想を「森林に関わる人々の仕事」に焦点化させた。</p> <p>T<sub>11</sub> なぜ減っていないと思いますか?</p> <p>C<sub>23</sub> 補っているからかな。作っているからかな。</p> <p>C<sub>20</sub> 植えているからかな。</p> <p>T<sub>12</sub> 植えているだけだと、逆に森林は増えていきませんか?</p> <p>C<sub>21</sub> 取っているのかな。</p> <p>C<sub>22</sub> 切っているのかな。</p> <p>C<sub>23</sub> 運んでいるのかな。</p> <p>※ 児童の予想を「森林に関わる人々の仕事」へ焦点化させた。</p> <p>T<sub>13</sub> こういうこと(資料3 枠囲み部図)について知るためには、どのようなことについて調べたらいいのでしょうか?</p> <p>C<sub>24</sub> なぜ減っていないのかを調べるといいと思う。</p> <p>C<sub>25</sub> 森林を守っていることを調べたらいいと思う。</p> <p>C<sub>26</sub> どうやって守っているのかを調べたらいいと思う。</p> <p>C<sub>27</sub> 取り組んでいることについて調べたらいいと思う。</p> <p>T<sub>14</sub> 取り組んでいることについて調べたらいいのですね。それは誰がしているのでしょうか?</p>	 <p>資料2 提示資料「教室の様子」</p>  <p>図4 提示資料「日本の森林面積の変化」</p> <p>(出典: 林野庁「森林資源の現況」)</p>

C<sub>24</sub> 市民かな。県民かな。人々かな。(口々に)  
 T<sub>15</sub> 人々が森林に取り組んでいることを調べたいのですね(「人々が森林に取り組んでいること」と板書【資料3 枠囲み部 図】)。

5 学習問題を設定する。

※ 予想を焦点化し、学習問題設定につなげさせた。

T<sub>16</sub> みんなの予想を調べていったら何がわかりますか。  
 C<sub>28</sub> 森林がどうなっているかが分かると思う。  
 C<sub>29</sub> 森林がなくなったらどうなるのが分かると思う。  
 C<sub>30</sub> なぜ森林が減らないのが分かると思う。  
 C<sub>31</sub> 人々が森林に取り組んでいることが分かると思う。  
 T<sub>17</sub> 「森林がなくなったらどうなるか」や「人々が森林に取り組んでいること」を調べると何がわかりますか。  
 C<sub>32</sub> なぜ守らなくてはいけないかが分かると思う。  
 T<sub>18</sub> なぜ守らなくてはいけないかが分かるのですね。(資料3 枠囲み部 図指しながら)では、それが一番調べなくてはいけないことになりそうですね。それでは学習問題はどんな言葉にしたらよいでしょうか。  
 C<sub>25</sub> なぜ森林は守らなくてはいけないのか。(口々に)  
 T<sub>19</sub> なぜ森林は守らなくてはいけないのが分かるために、これからいろいろなことを調べていくのですね(「なぜ森林は守らなくてはいけないのか」と板書【資料3 枠囲み部 図】)。  
 T<sub>20</sub> 学習問題について考えるために調べたいことは何ですか。(以後、省略)

資料3 本時の板書

(3) 考察

本研究では、学級全体の様子に併せて、M児を抽出し、検証の視点を基に考察していくこととする。M児についてのプロフィールは表3の通りである。

表3 抽出児Mのプロフィール

前単元では1単位時間に調べたり考えたりして身に付けた知識を関連付けて学習問題について自分の考えを記述することができていた。しかし単元を通して、身に付けた知識を関連付けて記述するには至らなかった。

ア 【検証の視点I】学習問題について考えるための問いをもつことについて

(ア) 検証授業(1/3)における児童の発言から

検証授業では、「森林は守り育てなくてはいけない」というメッセージが書かれたリーフレットを提示して、C<sub>全1</sub>のような反応やC<sub>1</sub>のような発言を引き出した。これは、児童が資料から気付きや疑問をもった姿であるといえる。次に教師がT<sub>2</sub>やT<sub>3</sub>のように問い返したところC<sub>2</sub>~C<sub>6</sub>のような発言が出た。これは、「森林の働き」について疑問の答えを探ろうとしている状態、つまり、予想をもった姿であると考え。そして、「森林の働き」が「木材」「水」「空気」など6つあることを構造的に示すために、児童の「森林の働き」に関する予想を教師がT<sub>4</sub>やT<sub>5</sub>のように言い黒板にまとめながら板書した。また、「森林の働き」についてT<sub>6</sub>のような焦点化するための発問をした。初めはC<sub>7</sub>やC<sub>8</sub>のように環境に関する発言だったが、T<sub>7</sub>のように板書に着目させながら問い返しをすることで、C<sub>10</sub>やC<sub>11</sub>といった全体に目を向けた発言を引き出した。これは、児童が初めは「森林の働き」を構造的に示した6つのうちの一部分しか見ていない発言だったのが、問い返しをしたり板書の内容に注目させたりしたことで、自分たちの予想を「森林の働き」へと焦点化させた発言へと変わった姿であると考え。

また、検証授業前のアンケートで、森林面積について減っていると感じている児童が多かったことを受け、教室が木造であることを例にT<sub>10</sub>のように言った後に図4を提示した。すると、C<sub>17</sub>, C<sub>18</sub>, C<sub>19</sub>のような反応や発言が出た。これは「森林面積は減っている」という児童の認識が揺さぶられ、自分たちの思っていたことと違うことから気付きや疑問をもった姿であると考え。そこで「森林に関わる人々の仕事」の予想を引き出すためにT<sub>11</sub>のように問い返しをしたところ、C<sub>全3</sub>やC<sub>20</sub>のような発言が出た。これは、「植林」に関する疑問の答えを探ろうとしている状態、つまり、予想をもった姿と考える。さらに、T<sub>12</sub>のように児童の判断を揺さぶる問い返しをしたところ、C<sub>21</sub>, C<sub>22</sub>, C<sub>23</sub>のような発言が出た。「植林」に関する予想

だったのが、問い返しにより「伐採」や「搬出」に関する予想をもった姿だといえる。また、「森林に関わる人々の仕事」について焦点化するためにT<sub>13</sub>のように発問した。すると、C<sub>24</sub>～C<sub>27</sub>のような発言が出た。これは、自分たちの予想を「森林に関わる人々の仕事」へと焦点化させた姿であると考えられる。さらに、T<sub>16</sub>の発問をすると、C<sub>29</sub>やC<sub>31</sub>のような発言が出た。これは何を調べていけばよいか分かった状態、つまり問いを見いだすことができた姿と捉える。

以上のように資料提示や発問、問い返し、板書の工夫などを行い、児童の気付きや疑問を基に予想を焦点化させながら構造化させていったことは、児童に学習問題について考えるための問いをもたせることにつながったと考える。

(イ) 児童の予想と学習問題設定後の問いの内容から

表4は「森林の働き」に関する発問「森林がなくなったらどうなるのでしょうか(T<sub>3</sub>)」に対して、児童がワークシートに記述した予想と、学習問題設定後の発問「学習問題について考えるために調べたいことは何ですか(T<sub>20</sub>)」に対して児童が記述した問いをまとめたものである。M児(24番)を例にすると、予想として「木材」に関するもの、「環境」に関するもの、「空気」に関するものの3つを記述していた。そして、問いとして「木材」に関するものと「生き物」に関するものの2つを記述していた。つまり、両方に挙がっている「木材」に関するものは、M児が自分で予想したことが本当かどうか、学習問題について考えるために調べなくてはならない問いと判断したものと考えられる。表4を見ると問いをもった児童は91%(34名)、予想として挙げたものが問いとなっている児童はその中の75%(25名)だった。91%の児童は問いをもつことができ、75%の児童は「森林がなくなったらどうなるのでしょうか」という発問に対して、予想を基に学習問題について考えるために調べなくてはならない問いをもつことができたと考えられる。

表4 1時目に児童がもった予想と問い

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
予想	土	環	水生	空水生	環生環生	水木空	水環環	環空	環木	不生空	環空	不他空生	環木他	水空生	水環	森	不木	生生環環	
問い	他		森	森	環生環空	空	水空	環空	環	不森	環空水生	不森森	他森森	水		森	不生環空森	生木空	
数 を 記 述 した					3	1	2	2	1	1	2	1		1		1	2	1	
	19	20	21	22	23	24(M)	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37
予想		生木	生生空木水	空木水生	木	不環空	環木空	環空生	生	環	環	環	生木木木	空木環	空	空	生他	環	環空木水
問い		生	生生環	空環水	木	木生	環生空	環空生森	生森空水	環生空木	木	森	生空森	空木水	空森森	森	生木木水環	森	森
数 を 記 述 した		1	2	1	1	1	1	3	1	1			1	2	1		1		

環：環境について 空：空気について 水：水について 生：生き物について 森：森林全体について 不：木材について 他：その他

イ 【検証の視点Ⅱ】 社会的事象の意味について考えることについて

(ア) 学級全体の変容から

a 学習問題の記述の面から

次頁表5は、澤井の理論(p.2参照)に基づき、児童の学習問題について考えた記述を、「森林の働き」「森林に関わる人々の仕事」という学習内容それぞれの記述の仕方について分類したものである。具体的知識を関連付け総合しながら学習問題について記述することができれば、社会的事象の意味について考えることができていると判断する。次頁表6はそれぞれの1単位時間の児童の学習問題について考えた記述を、表5を基に分析したものである。「森林の働き」では2時目11%(4名)、3時目32%(11名)、4時目48%(16名)、「森林に関わる人々の仕事」では3時目29%(10名)、4時目33%(11名)の児童(以上評価3、

4) が具体的知識を関連付けたり総合してたりして記述することができていた。また、「森林の働き」「森林に関わる人々の仕事」両方とも関連付けたり総合してたりして記述することができた児童は、3時目17% (6名), 4時目27%(9名)であった。以上のことから、調べる内容が増えていっているにも関わらず、それぞれの学習内容に関する2つ以上の具体的知識を関連付けたり総合したりして学習問題について記述することができた児童の割合が増えていることが分かる。このことは、社会的事象の意味について考えることができた児童が増えたことの表れと考えられる。

表5 学習問題についての記述の分類（「森林の働き」を例として）

評価	判断基準	例
4	1単位時間の学習内容に関する具体的知識を総合して記述している。	「森林は、川を生み出すなど私たちに必要なものを生み出す働きがあるから。」(森林の働きを「私たちに必要なものを生み出す働き」と別の言葉で表現している)
3	2つ以上の具体的知識を関連付けて記述している。	「森林は、水をきれいにしたり、水を貯えたりして川を生み出しているから」(「水をきれいにしたり貯えたりする」と「川を生み出す」という具体的知識を関連付けている)
2	2つ以上の具体的知識を並べて記述している。	「森林は水を貯えたり、水をきれいにしたりしているから」(2つの具体的知識を並べたのみ)
1	1つの具体的知識のみを記述している。	「森林は水をたくわえているから」
未	学習問題について記述することができていない。	

表6 学習問題についての記述の評価（「森林の働き」「森林に関わる仕事」をそれぞれどのように記述したか。）

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
2時目	森林の働き	1	欠	1	2	1	1	1	4	4	1	1	3	
	森林の働き		欠	2	4	2	1	2			4	1		
3時目	森林に関わる仕事	2		1	1	1	1	3	3	4			2	
	森林の働き	4	欠	2	2	1	4	4	2	4			2	
4時目	森林に関わる仕事	1		2	2	2	4	1	4	4	1	1	4	
		13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24 (M)	
2時目	森林の働き	2	1	2	1	2	2	1	1	2	2	1	2	
	森林の働き	1	4	1	1	4	4	1	4	1	4		1	
3時目	森林に関わる仕事	4		1		4	4	1	4	1	2	1	1	
	森林の働き	4	3		欠	4	4	1	4	4	4	4	4	
4時目	森林に関わる仕事	4		1		4	4	1	3		4	4	1	
		25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37
2時目	森林の働き	2	2	2	2	1	2	2	1	2	2	1	1	4
	森林の働き	1	4	1	1			4	欠	4	1	4	欠	4
3時目	森林に関わる仕事	1	3		2	2	2				3	4		2
	森林の働き	2	4	4	2	1	2	4	欠	4	2	欠	2	
4時目	森林に関わる仕事		1			2	1	1		4	4			

表7は児童の学習問題について考えた記述を、2つの学習内容「森林の働き」と「森林に関わる人々の仕事」をどのように記述したかを分類したものである。2つの学習内容に関する具体的知識について関連付けて記述することができれば、単元を通して「わたしたちのくらしと森林」という社会的事象について解釈していると考えられ、社会的事象の意味について考えることができていと判断する。表8は表7を基に3時目、4時目の記述を分析したものである。「森林の働き」と「森林に関わる人々の仕事」を関連付けて記述できた児童(評価3)は、3時目は50%(17名)、4時目は48%(16名)であった。「森林の働き」は2時目、「森林に関わる人々の仕事」は3時目の学習内容であった。その日の学習内容だけでなく、前の時間の学習内容に関する具体的知識について関連付けて学習問題について考えることができた児童が3時目、4時目とも半数近く存在した。このことは、半数近くの児童が「わたしたちのくらしと森林」という社会的事象について解釈したと考えられ、社会的事象の意味について考えることができたと判断できる。

表7 学習問題についての記述の分類（「森林の働き」と「森林に関わる人々の仕事」をどのように記述したか。）

評価	判断基準	例
3	2つの学習内容に関する具体的知識を関連付けて記述している。	森林を支えている林業の方々やボランティアの方々のおかげで森林の働きは守られる。森林を守らないと私たちの生活が不便になってしまうから。(「おかげで」という言葉で2つの学習内容を関連付けて記述している。)
2	2つの学習内容に関する具体的知識を並べて記述している。	森林を支えている仕事の人がある。森林を守らないと私たちの生活の支えがなくなるから。(2つの学習内容を意味付けせずに並べて記述している。)
1	いずれかの学習内容に関する具体的知識のみを記述している。	森林を守らないと私たちは生活できなくなるから。(「森林の働き」についての学習内容についてのみ記述している。)
未	学習問題について記述できていない。	

表8 学習問題についての記述の評価（「森林の働き」と「森林に関わる人々の仕事」とをどのように記述したか。）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
3時目	1	欠	1	3	1	3	3	1	1	3	1	1	
4時目	3	欠	3	3	1	2	3	1	3	1	1	3	
	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24 (M)	
3時目	3	1	3	1	3	2	3	3	3	3	1	3	
4時目	3	1	1	欠	3	3	3	3	1	3	3	1	
	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37
3時目	3	3	1	3	1	1	1	欠	1	3	3	欠	1
4時目	1	3	1	1	1	2	3	欠	3	1	1	欠	1

4時目に評価1と判断した児童が45%（15名）存在した。その中の73%（11名）の児童は「森林は大切だから、川にごみを捨てないようにして森林を守っていく」といった、これからの森林保全の在り方について記述していた。表現としては不十分ではあるものの、「森林の働き」と「森林に関わる人々の仕事」とを関連付けて考えていたからこそ、これからの森林保全の在り方に目を向けることができたのではないかと推察する。

b 学習問題について考えるための問いの面から

図5は、本小単元で児童がもった問いの種類の割合と総数の変容を表したものである。棒グラフで割合、折れ線グラフで問いの総数を表す。問いの種類について見てみると、具体的知識を問う問いが1時目は71%（86個）、2時目は78%（28個）だったが、3時目は63%（32個）とその割合は減っている。逆に社会的事象の意味を問う問いは、1時目では29%（35個）、2時目では22%（8個）だったが3時目には

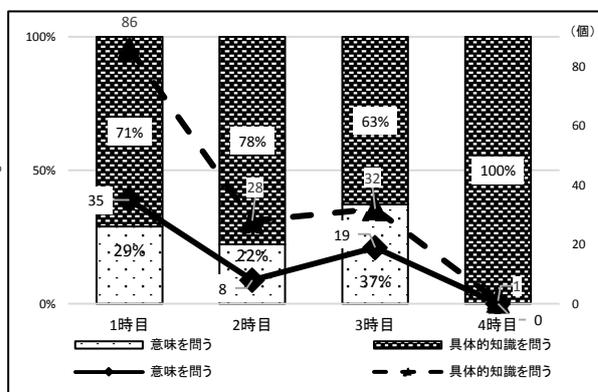


図5 問いの種類別の割合と総数の変容

37%（19個）と増えている。具体的知識を問う問いをもちながら、少しずつ社会的事象の意味について問う問いをもつことができていることが分かる。このことは、関係図の内容に着目しながら、具体的知識を問う問いを調べて具体的知識を身に付けた後も、学習問題についてすべて分かったと判断せずに、社会的事象の意味について考えようとしていることがうかがえる。

なお、4時目では問いが1個しか出なかった。4時目は「考え・まとめる」過程で、児童は問いの構造について全て調べ、学習問題についても自分なりの考えを記述することができ、問いをもつ必要がなくなったと判断したためと考えられる。児童に学習問題について自分なりの考えを記述させた後も、新たな問いをもたせながら社会的事象について考えさせるための手立てを講じる必要があると考えられる。

(イ) 抽出児の記述から

表9はM児の単元を通じた学習問題について考えた記述と学習問題について考えるためにもった問いの変容を表したものである。2時目は「災害を防ぐ働き(①)」と「生活に必要なものを生み出す働き(②)」という「森林の働き」に関する2つの具体的知識を並べて記述している(表9下線部①, ②)。そして「森林の働き」について2時目には調べ

表9 M児の学習問題について考えた記述と問いの変容

2時目 考え	<u>災害を防いだり (①) 生活に必要なものを生み出している (②) から。</u>
2時目 問い	<u>緑のこと (③)</u>
3時目 考え	<u>木がなくて間伐されず (④) 紙, 割りばし, 机, いすなどが作れなかったら (⑤), 私たちも普段の生活ができなくてこまるから。</u>
3時目 問い	<u>林業の人たちは, なぜ減っているのか。 (⑥)</u>
4時目 考え	<u>林業をしてくださっている人たちのため (⑦) にも森林を守らなくてはいけない。そして私にできることをしていく。例えば川にごみを捨てないなど小さなことを少しずつ積み重ねることで森林は守られる。</u>

ることができなかった「緑のこと(③)」という具体的知識を問う問いを記述した。この問いは、表現としては不十分であるが、関係図に「緑がなくなるとどうなるの」と記載されていることから、森林と自分たちの生活との関わりについて考えようとしていると推察される。3時目では「森林の働き」に関する具体的知識1つと「森林に関わる人々の仕事」に関する具体的知識1つを関連付けて記述した(表9下線部④, ⑤)。これは、M児が「森林に関わる人々の仕事」の中で「林業の人々」が自分たちの生活と関わりがある大切な存在であると捉えたと考える。そして林業に関する具体的知識と「森林の働き」の中で林業との関わりが深い「紙」や「わりばし」といった具体的知識を関連付けて記述することができたと考えられる。そして「森林に関わる人々の仕事」に関する「林

業の人々」について意味を問う問いをもった（表9下線部⑥）。これは、M児が具体的知識を問う問いを調べ、学習問題についてより詳しく考えるために、「林業の人々」について意味を問う問いをもった姿と捉える。M児は「林業の人々」が大切な存在であると考えているがゆえに「林業の人々」が減っていることに疑問を感じて問いにしたと推察する。

4時目には、「森林に関わる人々の仕事」に関する具体的知識1つ（表9下線部⑦）を記述し、自分の考えを合わせて記述した。3時目の「林業の人々」について問いをもち、4時目で改めて「林業の人々を支えなくてはならない」と考えたことと推察できる。また森林を守る具体的な自分の行動を記述していることから、「森林の働き」が大切であるから守っていかなくてはならないと思ったと考えられる。

M児の単元を通した学習問題についての記述と問いの変容を見ると、2つの学習内容「森林の働き」と「森林に関わる人々の仕事」について具体的知識を関連付け総合しながら「わたしたちの暮らしと森林」という社会的事象について解釈することができたことがうかがえる。また3時目では意味を問う問いをもつことができた。これは、M児が具体的知識を関連付けながら社会的事象の意味について考え、更に追究し続けようとした姿と捉える。

以上の(ア)、(イ)より、資料提示の工夫や発問、問い返しや板書の工夫を行い、予想を焦点化させながら構造化させて学習問題を設定したこと、さらに、関係図の内容に着目させながら学習を進めさせたことで、児童は学習問題について考えるための問いをもちながら、調べて身に付けた具体的知識を関連付け総合して社会的事象の意味について考えることができたことと推測される。

## 8 研究のまとめと今後の課題

### (1) 研究のまとめ

- ・「学習問題をつかむ」過程において、児童の気付きや疑問を基に予想を出させ、予想を焦点化させながら構造化させて学習問題を設定することは、学習問題について考えるための問いをもたせる上で有効であった。
- ・「学習問題をつかむ」過程で把握させた問いの構造を意識させながら学習を進めさせたことは、「調べる」過程や「考え・まとめる」過程において知識相互を関係付け総合して社会的事象の意味について考えさせる上で有効であった。

### (2) 今後の課題

「考え・まとめる」過程において、学習問題についての新たな問いをもたせるための指導の在り方

### 《引用文献》

(1)(2)(3) 澤井 陽介 『社会科授業づくりトレーニングBOOK 学習問題づくり・教材化・単元の指導計画づくり編』2015年 明治図書 p. 9, p. 18

(4)(5) 澤井 陽介 『小学校社会科 授業を変える5つのフォーカス』2013年 図書文化社 pp. 62-64

### 《参考文献》

- ・中央教育審議会 「教育課程企画特別部会 論点整理」 平成27年
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説社会編』 平成20年 東洋館出版社
- ・北 俊夫 『なぜ子どもに社会科を学ばせるのか』 2012年 文溪堂
- ・長谷川 康夫 『子どもが社会科で問題意識をもつ10のポイント』 2006年 学事出版